23　次の文章を読んで、後の問いに答えよ（設問の都合で送り仮名を省いたところがある）。 　　〈金沢大〉　二〇一五年度出題

　太　宗　㆓房　玄　齢　㆒、ａ自㆑ 古　帝　王　　㆑　喜　、　　 ㆑ ㆑功、　　　㆑ ㆑ 罪。ｂ是　以　天　　喪　乱、Ａ莫㆑ 不㆑ 由㆑ 此。朕　今　夙　夜 Ｂ㆔ 　㆓ ㆑ 　㆒㆑ 。　㆓ 公　等　㆑ 　極　㆒。　公　　　シ㆑ ㆓ 　諫　㆒。　㆘ ㆓ 人　　㆒㆑　㆓ 　㆒、

㆑ 　㆖㆑ 。　㆑ ㆑ ㆑ 、　　㆑ 。

（呉兢『貞観政要』巻二より）

（注）○太宗─唐の太宗、李世民。

○房玄齢─初唐の政治家。

○喪乱─おびただしい死者が出る社会の混乱。

○夙夜─朝早くから夜遅くまで。

○極諫─厳しく諫めること。

○護短─欠点を改めない。

問１　傍線部ａ「自古」、傍線部ｂ「是以」について、送り仮名を含む読み方を平仮名で答えよ。現代仮名遣いでもよい。

問２　傍線部Ａ「莫不由此」について、平仮名で書き下せ。

問３　傍線部Ｂ「未嘗不以此為心」について、「此」の内容を明らかにして現代語訳せよ。

◎問４　太宗が房玄齢らに求めたことを四十字以内で答えよ。

【解答と採点基準】

問１　ａ＝いにしより　　ｂ＝ここをもて

問２　これによらざる（は）なし

問３　Ａ世の中に乱れを生じさせることを避けるため、Ｂその時の感情のままに賞罰を行わないように、Ｃ今まで注意しなかったことはない。

Ｂに相当する内容を書けていないものは全体０。

Ａ＝３〔Ｂのように行動する「理由」として書かれていることが必

要。〕

Ｂ＝４〔「感情」は「気分」なども可。「賞罰」は「褒賞や処罰」

なども可だが、必ず両方の意が盛り込まれていること。〕

Ｃ＝３〔「いつも注意してきた」のような、強めの肯定文も可。〕

問４　Ａ帝王である自分を誠心誠意厳しく諫め、Ｂ諸大臣もまた他からの諫言を受け入れること。（39字）

Ａ＝５〔「誠心誠意」は「真心を込めて」なども可。「誰を」「諫

める」と書かれていることが必要。〕

Ｂ＝５〔「諸大臣も」は「房玄齢らも」なども可。「諫言を受け入

れる」は「諫められれば応じる」なども可。〕

【書き下し文】

　にひてはく、問１ａよりくにせてし、べばちにきをし、れば則ちに無きをす。問１ｂをての、問２れにらざる（は）し。だてれをてとさずんばあらず。に情をくしてせんことをす。公等もたらくのをくべし。にのがにじからざるを以て、ちをりれざるをんや。しをくるはずんば、んぞく人をめんやと。

【現代語訳】

　唐の太宗が房玄齢らに向かって言った、「昔から多くの帝王はその時の感情次第で喜んだり怒ったりし、喜んだときには功もない者にまでやたらと褒賞を行い、怒っているときには罪のない者までやたらと殺してしまう。だから（おびただしい死者が出る）社会の混乱というのは、これ（帝王の気ままな振る舞い）により生じていないものはないのだ。私は今、朝早くから夜遅くまで、

問３今までこの問題に注意しなかったことはない。諸君が気持ちを込めて厳しく諫めてくれることをいつも望んでいる。諸君もやはり他の人からの諫言を受け入れる必要がある。どうして自分とは異なる意見を言ってくるからといって、自分の欠点を改めず、（諫言を）受け入れないことがあってよかろうか。仮に他からの諫言を受け入れることができないのなら、（逆に、）どうして自ら他の人を諫めることができようか（いや、できない）。」と。